

インタビュー

「明日を拓く」

第247回



NICHYUKYO
一般社団法人日本遊技関連事業協会

NICHYUKYO
日本遊技関連事業協会



NICHYUKYO
一般社団法人日本遊技関連事業協会

日遊協風営法PTリーダー

茂木欣人氏

さまざまな話題を熱っぽく語る茂木欣人風営法PTリーダー

**改正要望などが目的
法令を勉強する場に**

——茂木さんは2012年に発足した、日遊協風営法PTのリーダーを長く務めておられますが、どういいういきさつでリーダーになられたのか話していただけますか。

茂木風営法PTリーダー(以下敬称略)

ホール営業は風営法の下、常に法律の改正、解釈、運用などに留意しなければなりません。なのに、法令上の議論をするテーブルが日遊協にはなかった。ことあるごとに適法か違法かという話になることもあったので、当時の庄司(孝輝)副会長と相談して、深谷(友尋)会長にPTをつくって勉強してはどうかという提案をしたら受け入れられました。それ以来、会議は法令の改正要望などを最終目的として必要に応じ開催しています。

——勉強会の性格が強いとはいえ、メンバー構成を見ると、風営法に関して熟知している人たちが集まっているように思われます。そのリーダーを任されているのだから頼もしいですね。

茂木 会社(ピーアーク)の事業部

黒子役に徹して十有余年 庄司前会長を支え続けた

で風営法がらみのことを担当したこともあって、法令のすみからすみまである程度は読んでいました。また興味があったので、パチンコ以外の風俗営業についても目を通し、何でこうなっているのか調べたりしました。法令を理解しないで、あやふやな伝聞などで、違法だ、適法だ、と判断しがちな傾向があり、まずはつきりさせたいという思いがPTにはありました。

——ピーアークが出店するにあたって、例えばその場所が、保護対象から離れていて大丈夫だと思っ

ても、実は不都合なことがあったりした経験があったのですか。

茂木 あらかじめそういったことにならないように調査してやっているのですが、風営法では、新規店舗開業の申請をして許可が出るまでの間に、保護対象の施設ができたら許可が出ません。許可が出るまで、申請してから1か月ぐらしかかります。その間に隣に病院や学校ができるという計画が公表されると、その段階で保護対象となり、パチンコ店の営業許可は出ません。例えば10年後に病院や大

学ができることになっても、法令上は許可が出ないんですよ。なぜかという点、風適法が守るべきは（パチンコの）営業所ではなく、国民の生活環境なんです。パチンコ店が不利だという話をよく聞きますが、そこを履き違えると、警察を含めた社会の目から、ずれていっちゃうのかなと思います。

——そういうこともあるので、日遊協の中に風営法のプロフェッショナルの集まりともいえる風営法PTが存在するのですか。

茂木 なんてこれが問題なのかと

今回のゲストは2012年に発足した日遊協風営法PTのリーダーを長く務めている茂木欣人氏です。会員企業・ピーアークの社員であるとともに、故庄司孝輝第6代日遊協会長に寄り添い、業界唯一の横断的組織の様々な会長業務を陰から支えてきました。大学での卒論が「パチンコ屋さんの店内放送」だったというユニークな人でもあります。風営法がらみの問題や自身がかわった施策、亡くなられた庄司前会長のことなどをたっぷり語ってもらいました。



聞き手=日遊協・広報室

いうことをわかってもらうために協議し、会員の人たちのためにきちんと方向性を示す場でもあるわけです。日遊協の施策としては、これはまずいなと思えば少し安全な領域で社会に受け入れられるようにやってきたのです。他団体と協議をする上でも、ここからこっちはアウトだ、セーフだという線引きをわかりやすくしないで、なんとなく話をすることはできません。専門の方に入ってもらっているのは、そこに理由があります。

いくつか要望を出し 一定の成果もあった

——風営法関連の整理や警察庁保安課の課長講話の読解も大事ですし、依存問題などで国会議員が国会で取り上げたりする。そのようなことにも、風営法PTは敏感に反応する必要があるわけですね。

茂木 課長講話に関しては、釘や賞品問題に関しても、以前と少し表現が変わることがあります。新たな要素、課題などが出た時にについては、なぜ講話で言及されたのかを考察します。サジェスチョンのように思えることがしばしばあるので、そういったことを考慮し

て、どう対処するか考えるわけですね。

——亡くなられた庄司会長の在任中、2018年2月に施行された規則改正では、新規則機は射幸性が抑えられ、出玉が3分の2になりました。しかし、法改正される前に理事会はもちろん、風営法PTでも議論をしたうえで、日遊協の見解をまとめ行政に要望し、ある程度受け入れられたものもありますね。

茂木 この時の改正は、依存対策の一環と受け止め、そのうえで、ソフトウェアングするために日遊協でいくつかが要望しました。通ったものを挙げると、それまでパチンコの1回あたりの出玉と賞品の交換上限額はほぼリンクしていたのです。旧規則のときは2400個ほどで、法令上の賞品の提供上限がおおむね1万円ぐらいでした。出玉上限に合わせて下げられそうになったので、過去の警察からの通知と根拠を示して、多様な賞品の品揃えができなくなるので、現状のままにしてほしいと要望して通ったのです。

その他では、メーカーさんも所属する日遊協の遊技機委員会が中

心になって作り上げた手軽に遊べる「ちょいパチ」が、規則改正の素案通りだと、作れなくなる恐れがありました。それについては日工組さんが根拠となる数字を示して、再考していただけました。

庄司会長の代わりに 支部で説明する役も

——健康増進法改正についても、日遊協は業界の不利益回避に貢献していますね。

茂木 その問題は当時、日遊協の社会貢献・環境対策委員会が取り組んでいて、パチンコ店を含む風俗営業の間取りで、喫煙所などを作ったりする場合、法令上、あらかじめ構造変更の申請をして許可を得なければなりません。そのころ全国にパチンコ店は1万軒近く、それ以外に風営法の範疇では接待飲食等営業に分類されるバー、キャバレーなどが6万店以上あったので、その1軒1軒が構造変更の申請をしなくてはならない建付けのままだったら、手続きが2年た

っても終わらなかったと思います。そうするとパチンコ店の受動喫煙対応が遅れる可能性があったので、いくつかの提案をしながら再検討していただけないかと交渉したのです。警察庁がもとともと考えていたことなのかもしれませんが、喫煙所を設置するための基準や手続きについて、大幅に緩和され、今、ホール以外の業種もその恩恵に浴している。これは社会貢献・環境対策委員会と、いろいろ基礎的な情報のやりとりをして、厚労省や自民党の風営法議連と一緒に陳情に行ったりしたことがうまく繋がった結果だと思っています。

——今お聞きしたようなことを、ホールや販社の関係者のすべてがきちんと理解していたわけではないので、各支部から風営法PTの

リーダーに説明に来てほしいという要望もありましたね。

茂木 庄司会長になってから、会長が呼ばれて各支部に行くこともあって、日遊協の取組みの中で、会員の皆様が興味のあることや知っておいてほしいことをわかりやすく話す役目をしていました。

新規則機や受動喫煙対策などいろいろな課題について支部の役員会で話をしました。九州支部では一番多い時で、20〜30人が参加し、会議室がいっぱいになりました。私が行くたびにいろんな話をさせてもらっていたので、手を挙げて質問してくる人がたくさんいました。そういう中で不平不満、なぜこうしなかったのかといった質問の一つ一つに答えることで理解が深まっていったように思います。会員の方には、まっすぐ行けば壁にぶつかるので、ちょっと迂回して壁にぶつからないような施策を取らせてもらった、というような話がありました。皆さんと意見交換をしたうえで、本部の施策を理解してもらえたいという会長の意向もあったので、批判や不満も含めて受けとめ、説明しました。



風営適正化法令関係法令集はいつも手許に

インタビュー「明日を拓く」

——あのやり方ははまったと思いますよ。

茂木 当時、ある問題で日遊協として方針を示せないけれど、みんなにどうしても伝えたいこととかがありました。線引きも含めて、他団体と話をしながら、何でこうなったのか、理解してもらえないような場を設けていきました。

日遊協で1週間後、10日後にアウンズされるのに、その前のタイミングで支部総会があったのに教えてくれなかった、となつては困るじゃないですか。現状確定はしていないけど多分こんなだったんですよ、と、差し障りがない範囲で話すことはありました。

私はずっとオーナーの秘書業務をしていたので、いろんなことを「直球」で言われることには耐性があります。そういう直言を言ってもらえるというのは大事な会員だと思えます。なぜかといえば、声を出さずに日遊協を退会されてしまうのが一番困るからです。庄司会長は「言いたいことを言う人を大切しよう」という考え方だったので、私は庄司会長の代わりになって、そうした人たちにいろんなこと説明していく役を買って出た

笑顔でパチンコを打つしくさも



のです。

三田店で始まった画期的な「1円パチ」

——射幸性を抑え、幅広いファンの獲得を目指し、深谷会長時代に新しいビジネスモデル創出の一環で、遊パチなどが誕生しました。2006年6月6日、ピーアークの三田店では画期的な1円パチンコの営業を始めています。茂木さんはピーアークの社員でもあり、1円パチンコの導入に携わっています。その話をしていただけですか。

茂木 当時日遊協の遊技機委員会（明日の遊技機を考える会）の委員長をやっていました。その会議ではチームごとにテーマを掲げ、様々な施策を練っていました。私は3

人のメンバーで、パチンコ店におけるファン拡大の施策をテーマにしました。その際、当社のトップから「1円パチンコをやれ」と指示が出て、さてどうやるかとなったわけ

です。当社だけでというわけにはいかないから、委員会と協議し、日遊協の試験的な施策というスタンスで話を進めたのです。

プリペイドカード会社には1円貸しができるユニットの対応をお願いしました。同時に警察庁、警視庁に仕様を持っていき、説明して理解を得て実現にこぎつけました。当時、1店舗で1円、4円の2貸玉料金の営業を想定した設備にはなっていなかったのですが、設備メーカーなどが尽力してくれたおかげもあり、営業する運びになりました。

50銭パチンコにもいち早く取り組む

——1円貸しと4円貸しの島を分

けたのですか。

茂木 まず三田店は地下一階を1円貸しとして、金色の玉を用意しました。持ち込み・持ち出し禁止の告知をしたり、玉数レシート、会員カードでも1円と4円の2通りを管理し、遊技料金の違反とならないように明示し、きちんとした仕組みを整えたのです。もちろん貯玉再プレーもその柱として活用しました。

営業を始めてみると課題もありました。ホール業者の方から「これでは儲からない」と言われたりしましたが、今普及率は高いですよ。1円パチンコがあるから打っているのか、もしかしてやっていなかったら4円で打っていてくれたかもしれない。安売りがなければ定価販売が成り立っていたかもしれない、というのはあるかもしれませんが、お客さんが楽しんで打ってくれているのは確かなことです。当時、1円をやって半年後くらいに「50銭パチンコ」という1円を下回る遊技料金での営業にもいち早く取り組みました。

日遊協はもともと社団法人で、様々な施策がオープンで自由を重視しているところがあるから、警

察庁にも、1円パチンコも含めて包み隠さず、こうした仕様でやりますと説明し、全部開示して進めたから、信頼を得たのではないのでしょうか。これが日遊協の一番大切な点だと思っています。ピーアークの理論ではなくて日遊協が、パチンコを身近な娯楽にするための施策を、法令上の課題もクリアして開示して進めたから、当時、警察庁も理解を示してくれたのではないのでしょうか。

中古機を使うことで一定のペイラインに

——1番大きい課題はお客がつくのか、儲けが出るのかだったと思いますが。

茂木 売り上げも4分の1になるから儲からないと言われていたのですが、やってみたら稼働数があがったことと、結果として利益が付いてきました。営業していてもパチンコに関してこれくらいの時間遊べればいい、サラリーマンが仕事帰りに2〜3千円くらい遊んでくれるようなセールスプロモーションを考えて、遊べる施策を提示したので、理解してくれたお客さんが多かったのかと思います。

一方で、4円パチンコで運用している時はお客さんに人気がなかった機種を1円パチンコで運用したら、お客さんがつくようになるという現象も起こりました。使用する金額に対してそのおもしろさは同じ価値があるか、いわゆる勝ち負けでなく、この機種で1万円も使ってこんなものかと思うのと、2〜3千円でアタリが楽しめるならおもしろい機種だとなったのではないかと思う。単純に考えると1パチは4円に比較して、欲しい景品にたどり着くまでに4倍かかります。だから貯玉していけば再プレーをしてお金を使わなくてすむし、お客さんも定着していく。

——なるほどね。

茂木 儲かる儲からないという話では、中古の機種を使うことで一定のペイラ



在りし日の庄司孝輝前会長の写真パネルに寄り添う茂木氏
(昨年10月の日遊協親睦チャリティゴルフコンペ会場で)

インに達しました。何よりも一番よかったのはお客さんが楽しそうにパチンコをするようになったことです。あの頃もファン人口が減少していたのに、1円パチンコが普及した初期の段階では、参加人口は少し上がっている。ここ10数年間でそこだけ上がっていると思います。

「1番は社会」が口癖 批判されてもブレず

——亡くなられた庄司(孝輝)前日遊協会長さんのことを話して欲しい。長いお付き合いですね。

茂木 本格的に二人三脚でやりはじめたのは2011年の東日本大震災の対応からです。ネオンを消すか消さないかとか、現実問題として、急に殺伐としてきたころからです。当時私は設備部門もやっていましたが、業界としての重要性を訴え、専属で担当することになったので、かれこれ12年くらいですね。

——茂木さんから見た庄司前会長の人となり語ってもらえますか。

茂木 自分の中での庄司孝輝像は、「公論(おおやけるん)」の人なんです。自分や会社の損得ではなく、これが業界や社会にとって必要かどうかが一番の価値判断だったのです。さらに業にとつて有利な事でも、不正であったり不透明な手順で決まることであつたら、公正透明でやろうと。仮に今目先の利益につながることであつてもそれが不正、不透明な形になるなら、今損してもやめるべきだという考え方の人でした。「1番は社会」。それをずっと言い続けていました。先ほど1円パチンコの話をしたわけですが、ちょうどそれが合ったわけです。

孝輝さんはロータリアン(ロータ

1968年生まれ。東京都出身。明治大学経営学部卒。1991年ピーアーク(株)入社。1994年庄司正英会長、2013年庄司孝輝日遊協会会長秘書を担当。2012年より風営法PTリーダー。

リーグクラブ(会員)なので、日遊協活動でも地域と社会への奉仕というのを地で行っていた。時々ブレることもありましたが、2人で修正しながらどこに出しても恥ずかしくないような形で活動はしていきましょうねと。日遊協会長になって7年くらいやってきました。当時、「なんで庄司さんは業界が儲からないことを言うんだ」と批判されたことがあります。ブレなかった。日遊協が元々、社団法人からスタートしたので、そこもマツチしたのではないかと思います。

庄司孝輝さんの実兄の庄司正英元会長(日遊協第3代会長)が、孝輝さんについて話された言葉ですが、「人間の容量が大きく反対意見にも寛容だった」というのは、これ

公の器の話ですね。別の席で「弟はロケターアンを地で行っていた」と話していました。批判的な意見にさらされても、たいてい風のように流していましたが、ストレ

スはかかっていたので、そういう時はたいてい私に八つ当たりしましたね。「あの人はなんでこれと言っているのか、本人には言わずに受け流していいのか」などと。

寂しがり屋ですから 笑顔で僣んでほしい

——茂木さんは庄司前会長に対し、いつも言いたいことを言っていたようですが、怒られたことはなかったのですか。

茂木 仮に怒られていたとしても、私自身に怒られた意識というのではないです。「俺に対して言い過ぎ、失礼じゃないか」ということはよく言われました。これ言ったら恥ずかしいという内容については遠慮せず言いましたから。

ピーアークの役員室で30分程度打ち合わせをするのですが、隣席の役員は、すごいこと言ってるなという視線で私を見ていましたね。周りから見ても、私と庄司孝輝さんの関係が特異だったと思います。でもそこまで言えたのは、「二体」だと思っていたからです。庄司前会長が恥ずかしいと見られたら、それは私の恥でひいてはピーアークの恥につながると考えて

いました。あとは施策など価値観の違いが出るものについては、それでもやるというなら、しっかりと方向性だけは合わせて施策を提案していきました。

ちよつとパチンコ店を見に行くというとき、試しに打ったら私が大当りをしてしまっていました。と玉が出ちゃって行けませんと言ったら、庄司さんから「俺よりス

卒論のテーマ「パチンコ屋さんの店内放送」

——茂木さんが大学を卒業してホール業界に入った動機をお聞きたい。

茂木 私は明治大学に通っていて、卒論のテーマが「パチンコ屋さんの店内放送」についてでした。当時のゼミの先生がQCを専門にしていたのですが、とても寛容で、「とりあえずみんな社会に出たらいいから、どんなことを人に説明することが必要だから、どんなテーマでもいいからみんなを納得させておもしろいと思わせる内容にしろ」と。私はパチンコばかりしていたので、それをテーマにしました。パチンコ屋さんがどうしてお客さんの打つ気を継続させるのかを適当に書いて、みんなの前でパチンコのお

ロットが大切なのか」と笑いながら言われたこともありました。

——お別れの会も決まりましたね。
茂木 一周忌(1月22日)の頃はオミクロン株の感染者が急増中でしたので、3月25日に決まりました。本人は寂しがり屋ですから、みんなが集まってワイワイやってくれて、笑顔で僣んでいた方がいいなと思います。

もしろさを話したら優をもらえました。一番の評価はプレゼンだと書かれたのを幸いに、適当なメモに書いて、自由にみんなにおもしろおかしく伝えました。

それほどパチンコが好きだったので、一番好きな仕事としてパチンコ店に入ればよかったのです。当時、ピーアークが新卒を取り始めて2期目で、いろいろな面白い取組みをしている企業だったので、就職先に決めました。「路地裏の小窓」が、パチンコの問題の本質だろうと思ひ、採用試験の社長面談でそう話したのですが、そんなことをいうのはお前だけだと言われましけど、幸い採用になりました。

3月をもって退職
自営業になる予定

——両親は反対しなかったのですか。

茂木 親には自分の好きなことをやればいいと言われました。当時、パチンコ業界はあまり景気に影響されなかったもので、物を売る商売より良かったんじゃないかと。

——ピーアークで最初の勤務はホールですか。

茂木 店舗勤務後、庄司正英会長秘書業務を兼ねて日遊協に4年間詰めていました。その後、不正対策と営業設備担当、行政申請業務などを経て遊技機購買部門も兼ねた部門長に就きました。その後、ピーアークが上場申請の準備をするタイミンで子会社の社長をされました。そうこうするうちに1円パチンコ、50銭パチンコを並行してやりながら、庄司孝輝さんが日遊協の会長になって付き添うようになり、現在に至っています。

長い間ピーアークの社員でしたが、実はこの3月末で退職することになりました。会社とは4月以降も委託業務という形に代わりま



キンメダイを70匹ほど釣ってご満悦

すが関係は続いていきます。日遊協活動も引き続きやらせていただきますが、4月からは自営業となる予定です。会社としてはピーアーク以外の契約もOKというので、これまでの経験を活かしたお手伝いができるようになっていきます。自営業者になるのは初めてなのでワクワクしています。

好きな海釣りには
年間20回ほど行く

——ずいぶん思い切りましたね。広報誌のコラムでもおなじみになった趣味の釣りはどうですか。

茂木 釣りは子どもの頃からやっていたのですが、海の釣りがおもしろいのは、例えばキンメダイ釣りでも他にいろんな魚が釣れると

ころです。淡水ではそういうことはあまりありません。準備をすること、仕掛けを作ること、仲間と釣ること、自然相手なのですごく楽しい。自分は魚をあまり食べないので高年齢の両親が、いろんな魚を食べることを生活の変化として楽しみにしているのが、実家の冷蔵庫を見て魚が足りないから今度はこれを釣りに行こうとか考えています。

1m半ほどしか離れていない場所にいる友人が釣れていないのを見て、私がデモンストレーションしてこうやって釣るんだよとか、釣りの楽しさを教えたりしています。釣りに誘った人が魚を持ち帰った家庭で、お父さん珍しく役立ったね、みたいな会話が出てくるのが楽しい。今は年間20回くらい行ってますね。大物より小物と言われる20〜30、50cmくらいの魚をたくさん釣ることが楽しいんです。そういった意味では去年キンメダイを70匹ほど釣ったのが最高の釣果です。釣り仲間に分けたり、両親が昔商売していたころのお付き

合いのある人たちに配ったりもしています。新たな会社の事業計画に、釣り具の企画開発販売を入れるつもりです。商売になるかどうかはわかりませんが(笑)。

過度に委縮せず
前向きにみんな

——ホール業界の今後、こうなっただけじゃないかと思っていることなどがあればどうぞ。

茂木 依存対策は依存対策、集客は集客で様々な規制がありますが、そんな枠の中でも自由な競争ができるような環境になるといいなと思っています。過度に委縮せず、前向きにみんなファンを増やせる取組みができるようになると思います。日遊協に臨むのはそこです。

——日遊協は西村拓郎会長に代替わりし、改革という旗印の下、新たな委員会、PTが複数誕生しました。茂木さんは風営法PTのほかに、業界が抱える大きな課題の一つ、キャッシュレス推進PTなどで重要な役割を担っています。これからも日遊協のために頑張ってください。本日は長時間ありがとうございました。